

# 常 設 委 員 会 報 告

## 総務委員会報告 委員長 鈴木 太

平成26年度の総務委員会は、下記の9名にて構成されています。

委員長:鈴木 太(株)東海環境エンジニア  
副委員長:加藤 信治(株)松原工事事務所  
委員:西部 雅英(株)ヨコタテック  
委員:広瀬 義純(株)アサノ大成基礎エンジニアリング  
委員:真鍋 保幸(東海地質工学(株))  
委員:天木 亨(興亜開発(株))  
委員:田中 一浩(株)フジヤマ  
委員:山本 貢司(東洋地研(株))  
委員:土屋 靖司(株)富士和)

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
  - ・独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ)新入会員の入会促進運動
- ハ)地質調査技士に関すること
  - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
  - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
  - ・登録更新講習会の実施
  - ・地質情報管理士資格検定試験
  - ・その他地質調査技士に関すること
- ニ)四支部協議会の実施
- ホ)会員相互の親睦会の実施
- ヘ)その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

### ●親睦ボーリング大会

平成26年5月23日 星ヶ丘ボウル

参加者 71名(21社)

優勝者

団体 中央開発(株)Bチーム  
個人男子 中央開発(株) 小木曾 健二  
個人女子 中央開発(株) 佐道 真由美



地質調査技士受験対象講習会風景

### ●地質調査技士受験対象講習会

平成26年6月20日 ウイルあいち

受講者 27名

### ●第49回地質調査技士資格検定試験

平成26年7月12日 愛知県青年会館

部 門	受 験 者	合 格 者
現場調査	16	3
現場技術・管理	44	9
土壌・地下水汚染	5	0
応用地形判読士	5	2
地質情報管理士	2	2
計	72	16

### ●親睦ゴルフ大会

平成26年10月30日 富士カントリー可児クラブ

参加者 18名(18社)

優勝者 (株)大和地質 大久保 卓

### ●平成26年度コンプライアンス講習会

平成26年11月27日 メルパルク名古屋

受講者 208名(五協会合同)

講師

公正取引委員会事務局 中部事務所

消費税転嫁対策調査室 主査 野田 聡

公正取引委員会事務局 中部事務所

経済取引指導官 齋藤 誠誉

社会保険労務士法人 人事パートナーズ

代表社員 池田 隆充

### ●第31回地質調査技士登録更新講習会

平成26年12月5日 名古屋国際会議場

受講者 186名

### ●新春賀詞交換会・麻雀大会

平成27年1月17日 麻雀「琥珀」

参加者 32名(22社)

優勝者 (株)東海環境エンジニア 鈴木 太

### ●四支部協議会

平成27年1月30日

中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

最後に、委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



## 研修委員会報告

委員長 大久保 卓

平成26年度の研修委員会のメンバーは以下の9名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓(株大和地質)  
 副委員長：阿部 暢夫(富士開発株)  
 委員：中村 正和(株日さく)  
 委員：中川 直之(日本物理探査株)  
 委員：佐藤 雅人(株ティビー)  
 委員：中山 宏史(有総合開発調査)  
 委員：高橋 将也(村木鑿泉探査株)  
 委員：鈴木 正之(株東日)  
 委員：中野強一郎(株中野地質)

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- ①協会の技術向上のための技術研修会・講習会の開催
  - ・現場見学会による研修会の開催(隔年実施)
  - ・技術講習会としての新春技術懇談会の開催
- ②当協会が地盤工学会と連携して進めている調査研究委員会への支援
  - ・「想定外」豪雨による地盤災害への対応に関する調査研究委員会への委員派遣
- ③救命講習会

以下に主な活動について報告します。

### ●現場研修会

開催日時：平成26年6月13日(金)

参加者：21名

研修場所は国土交通省中部地方整備局の名古屋港湾空港技術調査事務所の管理する伊勢湾水理実験センターと豊橋の自然博物館の2箇所を見学しました。

特に自然博物館ではタイミングよく岩石の展示があり、松岡館長自らの説明を受け地質屋さんには大変興味深い内容であったと思います。

### ●救命講習会

開催日時：静岡 平成26年10月2日

名古屋 平成26年10月28日

開催場所：静岡 静岡市石田消防署(参加者24名)

名古屋 名古屋市昭和消防署(参加者14名)

講習内容：普通救命講習I

主な講習内容は心肺蘇生法及びAEDの使い方、更には気道異物の除去・大出血時の止血方法等です。

前年度名古屋において2回講習会(計49名参加)を実施しており大盛況でしたので、今年は静岡県協会を中心に24名の参加者の元、内容の濃い充実した講習会を実施しました。また、講習会参加者(静岡地区)2名の方に感想文

を頂き今年も「土と岩」に掲載しています。



写真-1 救命講習会実施状況

### ●新春技術者懇談会

開催日時：平成27年1月30日(金)

会場：ホテル名古屋ガーデンパレス

主催：中部地質調査業協会

共催：中部土質試験協同組合

演題：「甚大化する地盤災害の常識を再整理して備える」～津波、豪雨、超過洪水、陥没で水と土のかかわりを見直す～

講師：名古屋工業大学 教授 前田 健一先生

参加者：50名

講演内容は、津波、豪雨、超過洪水等によってひきおこる地盤の陥没崩壊について独自の研究、調査結果に基づいての内容でした。水と土のかかわりを見直す必要性を感じ、今後の業務及び防災・減災に役立つと思います。参加者皆様が大変興味深く感じておられ、質疑も活発に行われました。残念なのは時間が少し短かったように感じられたことです。



写真-2 新春技術者懇談会

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



## 広報委員会報告

### 委員長 西川 一弥

平成26年度の広報委員会は、新たに静岡県協会が加わり、委員長・副委員長をはじめ、以下の9名のメンバーで構成されています。

委員長：西川 一弥(中央開発株)  
 副委員長：松浦 好樹(株ジーベック)  
 委員：森 理(協和地研株)  
 委員：妹尾 俊美(株シマダ技術コンサルタント)  
 委員：佐藤 安英(株中部ウェルポーリング)  
 委員：後藤 邦夫(株テイコク)  
 委員：富田 義裕(株東建ジオテック)  
 委員：狩野 行宏(株中日本コンサルタント)  
 委員：服部 剛明(服部エンジニア株)

(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動方針は、第53回通常総会で承認されました以下の7項目です。

- (イ)発注者に対する広報活動
  - (ロ)中部地方整備局との意見交換会の実施
  - (ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
  - (ニ)全地連積算委員との連携
  - (ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
  - (ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
  - (ト)広報活動での「土と岩」の配布
- 以下に、主な活動について報告します。

### ●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会会社のご協力を頂き、7班編成で6月16日より実施しました。

訪問先は、中部協会の広報委員会が愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人を担当し、愛知県協会、岐阜県協会、三重県、静岡県協会が各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」62号
- ・全地連PR誌：日本ってどんな国 富士山と(6テーマ合本版)

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け

継がれてきました。今回配布した62号は、社会資本の長寿化に向けた維持管理の重要性や防災・減災対応など社会的必要性の高まりから「国土強靱化～脆弱な地盤への対応～」をテーマに特集を企画しました。各分野の専門の方々に執筆して頂き、読み応えのある内容です。また、同号には「平成25年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」、富士山世界遺産登録を記念しまして特別寄稿として「富士山」等盛りだくさんの内容を掲載しています。多くの方々が機関誌のよさばえの高さに感心され、技術資料としても価値があるとお声を頂き、各部署の皆様方に回覧するとのお約束もしてもらいました。

「平成25年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」は平成26年1月29日に国土交通省中部地方整備局と行ったもので、その内容についても報告させていただきます。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連PR誌「日本ってどんな国」は、私たちが暮らす日本の地盤を知ることの大切さを平易にまとめた小冊子で、今回は「地震／津波／液状化／火山／豪雨／地下水6テーマ合本版」と新たに編集されました「富士山」編を配布致しました。

地質調査の重要性については、各発注者の理解は得られていると思います。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高いと思われ、突然の訪問にも拘わらず各発注者には快く対応して頂き、紙面をお借りしここに深く感謝申し上げます。

### ●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「平成26年度中部地区に於ける地質調査業に関する意見交換会」は、平成27年2月6日にKKR名古屋ホテルにて開催され、その結果については本誌に記載されている通りです。

### ●委員会の取り組み

広報委員会は、今後もますます中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。

## 技術委員会報告

委員長 法安 章二

平成26年度は、ミニフォーラムの企画・開催や学会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

今年度のメンバーは、以下の9名です。

委員長：法安 章二(玉野総合コンサルタント(株))  
 副委員長：米田 茂夫(株ダイヤコンサルタント)  
 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))  
 委員：片岡 泰(株キンキ地質センター)  
 委員：草野 善彦(株岐阜卓ソイルコンサルタント)  
 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))  
 委員：高橋 幸伸(東海ジオテック(株))  
 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))  
 委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

- (イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進
  - ・「中部ミニフォーラム2014」企画・開催(H26.10.24)
- (ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、事業協力
  - ・「地盤調査ボーリング作業見学会」の開催(H26.5.16)
- (ハ) 全地連が主催する講習会の開催支援
- (ニ) 地質調査関連講習会への講師派遣

### ●地盤調査ボーリング作業・物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤力学・工学講習会(現場編)地盤調査ボーリング作業・物理探査～室内土質試験見学会」に中部土質試験協同組合と共催の形で毎年実施しております。

技術委員会は、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験等の実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリングツールについても各種展示しました。

参加者は70名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は12社28名でした。



### ●中部ミニフォーラム2014

今年9月17日～18日に予定されている全地連「技術フォーラム2015名古屋」に先立つ開催として企画した結果、92名と多くの方の参加を賜りました。

中部ミニフォーラム開催の主旨は、例年通り「技術の伝承」を念頭に、協会会員各社に在籍の、特に若手技術者の発表力・技術力向上です。

今年度は16名の多くの若手技術者が発表を行い、その後発表内容に対しての意見交換の場を設け、各セッションの終了時に座長が簡単な講評をまとめました。限られた時間の中で、経験豊富な技術者からのアドバイスや意見交換ができ、非常に有意義で密度の濃い知識の集積を計ることができました。

審査の結果、優秀賞が山下大輔氏(中央開発(株))、また若手技術者を対象とした奨励賞が鈴木和也氏(応用地質(株))の2名に決まりました。両名には、5月に開催の通常総会の場において表彰を行います。また、論文は本号「土と岩」及び、協会ホームページにも掲載してあります。



このほか、地盤工学会中部支部および日本応用地質学会中部支部等の諸行事への共催、並びに後援等の協力については、以下の通りです。

### ●日本応用地質学会中部支部

・平成26年度研究発表会・講演会(H26.10.17)

### ●地盤工学会中部支部

・第23回 調査・設計・施工技術報告会(H.26.6.20)

・第26回中部地盤工学シンポジウム(H26.8.8)

・「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会への委員派遣継続(～H26)

・平成26年11月長野県北部を震源とする地震合同調査への委員派遣(H26.12.8～9)

### ●その他

・「中部地方巨大災害タスクフォース」委員派遣継続

・地質リスクキーマンの活動(全地連)



# 防災委員会報告

委員長 武藤 英教

今年度のメンバーは以下の8名です。

- 委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
- 副委員長：澤田 哲郎(株朝日土質設計コンサルタント)
- 委員：澤田 茂(株興栄コンサルタント)
- 委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
- 委員：大出 彰宏(日特建設(株))
- 委員：黒田 了介(株グランドリサーチ)
- 委員：齋 秀(株東海建設コンサルタント)
- 委員：岡野 直次(株ランドテクト)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです

- ①中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
- ②「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」の構成員として継続会議に出席、広域防災訓練に参加
- ③震度5強の地震を想定した防災訓練の企画・実施

## ●事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定によれば、「会員の連絡体制及び、会員が有する技術者・資機材等の員数について、毎年6月末までに提出すること」となっており、災害時に正確に情報伝達ができるように、登録リストの更新整備を確実に実施することが防災委員会の重要な役割だと考えております。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計95社が登録されました。また登録派遣人員数は491名と10名減少しております。

## ●岐阜県地質調査業協会からの災害時支援要請に係る協力についての覚書の締結

岐阜県地質調査業協会と岐阜県はH17.11に災害協定を締結していますが、広域連携の観点から、中部地質調査業協会に支援依頼が可能となるようにH26.10書面で手続きをしたものです。尚、同様の覚書はH19.3に三重県地質調査業協会とも締結しています。

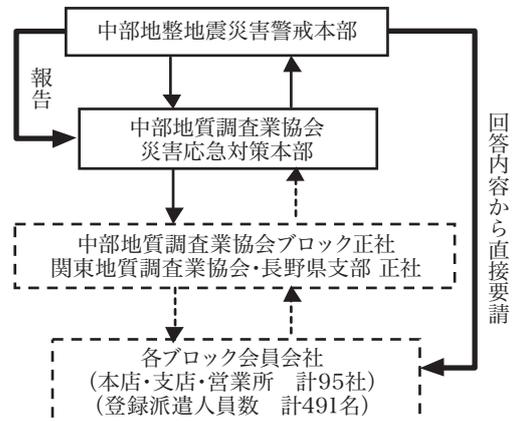
## ●「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」の構成員として継続会議に出席

東日本大震災を踏まえ、運命を共にする中部圏の国、地方公共団体、学識経験者、地元経済界が幅広く連携し東海・東南海・南海地震等の巨大地震に対して総合的かつ広域的視点から一体となって取り組む協議会(構成員:125協議団体)が結成されており、当協会の代表として委員が出席しています。詳細内容については中部地整のホームページをご覧ください。

## ●「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との防災協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。本年度はH26.9.29と実施日を公開し、初めての試みである「メール」にて情報伝達訓練を行いました。事前に協会→ブロック長→配下協会員にメールアドレスの確認作業をしていただいた結果もあって、回答率は登録業者数で87%(昨年は88%)となっており、従前からの継続訓練によりメールでも比較的スムーズに地整側に報告できる体制が整っていると判断されました。

訓練後のブロック長へのアンケートでは、今後の訓練のあり方に対する貴重なご意見を多数いただき、この場を借りて御礼申し上げます。



以上が活動報告です。

先の中部地整との意見交換会でも、昨今の頻発する土砂災害に対しTEC-FORCEが地方に派遣出動する機会が増えていることが紹介されました。当協会に対しても災害時の支援体制を確保・維持していくことが求められています。その中で四県支部協会とも各県と災害協定を結んでいる現状では、今後重複した出動要請が考えられます。協会員の皆様におかれましては、南海トラフ地震と言う本地域が抱えている現状を再認識し、協力要請に対応できるよう一層の社内防災体制の確立に努めていただくようお願い申し上げます。



## 編集委員会報告

委員長 伊藤 重和

平成26年度の編集委員会は、以下の9名で運営しています。

- 委員長：伊藤 重和(東邦地水(株))
- 副委員長：河本 光司(応用地質(株))
- 委員：片平 宏(明治コンサルタント(株))
- 委員：佐藤 威臣(国土防災技術(株))
- 委員：竹市 雅史(株東京ソイルリサーチ)
- 委員：山里 剛史(株ダイム技術サービス)
- 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
- 委員：川口 勝男(丸栄調査設計(株))
- 委員：遠藤 喜徳(株建設コンサルタントセンター)

本年度の編集委員会活動は以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」62号の発刊、配布先の検討、配布と「土と岩」63号の企画制作
- ②中部地質調査業協会のホームページの維持管理更新
- ③全地連「拡大編集委員会」への参画、アンケート対応

なお、ホームページにつきましては、「ホームページワーキング活動報告」で紹介しており、ここでは主に「土と岩」63号の企画制作について記載いたします。

### ●「土と岩」63号の編集について

平成26年度は4月と6月の2回の委員会で方向性を決め、協議すべき点はメールによるやりとりで進めました。そして7月から外部執筆者に依頼を開始しています。

執筆者の皆様には、大変忙しい時期にも関わらず、絶大なるご協力をいただきましたことを、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

### ●特集テーマおよび記事の選定

特集テーマに関しましては、まず平成23年に三重、和歌山、奈良に甚大な被害をもたらせた台風12号による災害の総括をするという観点から「豪雨と災害」としました。この台風による災害については、三重県内については地盤工学会中部支部と我々中部地質調査業協会が、また奈良県内、和歌山県内については地盤工学会関西支部と関西地質調査業協会が3年以上にわたって協力しながら、現地を踏査し調査研究をしてきたものをとりまとめたものであります。

そして近年の「豪雨と災害」といえば、伊豆大島火山山麓の土砂災害や広島土石流は記憶に新しいところであり、それらの災害の特徴や軽減策にも触れながら、特集を組ませていただきました。

平成23年12号台風に関しましては、三重県を三重大学の酒井先生、奈良県を大阪市立大学の三田村先生、和歌

山県を和歌山大学の江種先生にそれぞれご執筆をお願いいたしました。

伊豆大島については、実際に現地に入って調査されました名古屋大学減災連携研究センターの曾根先生と応用地質(株)様にお願ひし、斜面崩壊の機構の解明に関する研究成果に加え、防災・減災についてもご執筆いただきました。また防災科学技術研究所の井口様には、戦後の代表的な豪雨災害について、原稿執筆依頼後に発生した平成26年8月の広島土石流災害にも随時触れながら、総括的にご執筆いただきました。

### ●特別寄稿

近年、各大学では防災・減災にこれまで以上に取り組んでいくために、その専門的な組織を立ち上げて積極的な活動をされています。本63号からはそれらの組織について順次取り上げ、紹介をしていく予定です。

今回はその第一弾として、「名古屋大学減災連携研究センター」を取り上げ、福和センター長にご執筆いただきました。

### ●散文

今年度は東海道新幹線が50周年を迎えました。またリニア新幹線の着工の発表や金沢新幹線の開通など、インフラとしての鉄道に関する話題が豊富でありました。そのような中、技術主体の機関誌の気分転換になることも意図し、名古屋市にある「リニア・鉄道館」を取り上げ、JR東海リニア・鉄道館副長の寺地様に「リニア・鉄道館の概要」についてご執筆いただきました。

### ●その他の記事等について

平成27年2月に国土交通省中部地方整備局様との意見交換会を開催し、その内容を掲載致しました。

また、協会内部からの投稿として、中部ミニフォーラムの優秀賞・奨励賞の2点、研修委員会の実施した現場研修会報告と普通救命講習会受講報告を各2点、および常設委員会報告等、協会活動も含め、多岐にわたり取り上げ、協会内外に向けて発信していく機関誌を目指しました。

最後になりますが、本誌の表紙は自然といかにうまく付き合い、防災・減災につなげていくのかということ意識し、壮大な自然の象徴である木曾三川を木曾三川公園の展望タワーから撮影しました。

今後とも皆様に興味深く愛読されるよう努力していきたいと考えておりますので、是非ともアンケートにご指摘いただく等、ご指導賜りますようお願い申し上げます、編集委員会報告と致します。